



「令和の日本型学校教育」ふるさと扇小の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

1 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会のあり方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など行き先不透明な「予測困難な時代」

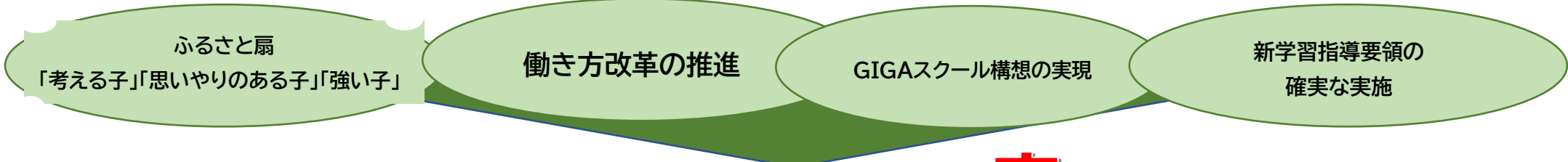
新学習指導要領の着実な実施



ICTの活用

一人一人の児童生徒が、**自分のよさや可能性を認識**するとともに、**あらゆる他者を価値のある存在として尊重**し、**多様な人々と協働**しながら様々な社会的変化を乗り越え、**豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが必要

2 直面する課題と新たな動き



自走して改革を進めることで、扇小の教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」をつくる

3 実現すべき「ふるさと扇小」の姿

学びの充実
授業改善

教師の姿(指導の姿)

児童の姿(学びの姿)

- ① 個別最適な学び(学習の個性化)
 - 基礎的・基本的な知識・技能等を**確実に習得**する
 - 自ら**学習を調整**しながら粘り強く学習に取り組む
- ② 協働的な学び
 - 探究的**な学習や**体験的**な学習を**多様な他者**と協働する
 - 他者を価値ある存在として**尊重**する
 - 様々な社会的な**変化を乗り越え**、持続可能な社会の創り手に

- ① 個に応じた指導(指導の個別化)
 - 指導方法や指導体制の工夫・改善
 - 指導方法・教材等の**柔軟な提供**・設定
 - ICT環境の活用
 - ② 一人一人のよい点や可能性を生かす指導
 - 「孤立した学び」にならないようにする
 - よりよい学び**を生み出す
- ★生涯を通じて**学び続け**、子供一人一人の学びを最大限に引き出す
★主体的な学びを支援する**伴走者**